

防災通信 No.21

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらお寄せください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

災害時の暖房

【暖房にはエネルギーが必要】

真冬の寒い時期に大地震が発生、ライフラインが停止し暖房できなくなったら？
阪神淡路大震災、東日本大震災とも寒い時期に起きています。災害後のアンケートでは、困ったことの上に「暖房手段を失った」がありました。

地震災害では、暖房手段を失う可能性が高いので、その対策を立てておくことが必要ですね。
これまでの大震災時、住んでいる建物の崩壊は免れても、都市ガスや電気などライフラインが1週間以上、場合によっては1ヶ月以上に渡って停止しました。

〈備えておきたいオススメ暖房器具〉

・石油ストーブ

東日本大震災のあと石油ストーブが見直され、たくさん売れたそうです。しかし、災害時だけのために石油ストーブを用意しておくというのは、灯油の保管の問題がネックになります。日常的に一部の暖房を石油ストーブにして灯油は翌年に持ち越さない、という使い方もあります。電源を使わない旧来の石油ストーブなら機器の移動も簡単ですし、灯油さえあれば使用できます。ただし、電池が切れると点火できないタイプもあり、マッチで点火できるかどうか確認しましょう。



・カセットボンベ式ストーブ

カセットコンロに使うガスボンベをエネルギー源とする非常用ストーブがあります。ボンベ1本の燃焼時間は長くても3時間程度ですが、機器もボンベも他の非常用アイテムに比べるとリーズナブルです。

また、部屋全体を温めるようなパワーは期待できませんが、それでも、無いと有るとでは大違いです。災害時に「あってよかった」という声も多数聞かれるそうです。

ボンベ1本、有名メーカー製でも100円台で買えます。**カセットコンロも災害時に重宝**しますから、多めに備蓄してもよいのではと考えます。保管期間は特に設定されていませんが7年位が目安です。直射日光が当たらない、温度差があまりない、乾燥した場所での保管を心がけてください。

【複数の暖房手段でリスクを分散】

暖房手段が電気しかない、ガスしかない、そんなご家庭は多いかと思います。災害時、ガスは止まったけど電気はきている、またはその逆も、考えられます。つまり、どちらかは使える可能性がありますので、暖房手段を複数確保しておくことも、暖房手段を失うリスクを軽減することになります。

エアコンなどの電気暖房しか無い家ではガスや石油ストーブを、ガス暖房しか無い家では電気や石油ストーブの準備をご検討されてはいかがでしょうか。

